



愛知県での 支援



愛知を選んでよかったと 思ってもらえるように

愛知県での支援は、
あいち・なごやボランティア支援連絡会をベースに、
あらゆる支援組織と連携して、
愛知へ避難されている方に寄り添い、
サポートしています。

1 愛知県被災者支援センター運営

愛知での支援を被災地の未来へつなげる

震災で、愛知県には約1,500名(2013年3月現在)の方が避難されています。避難されている方を県全体でバックアップするために、愛知県が被災者支援センターを2011年6月に設置。愛知ネット、レスキューストックヤード、ボラみみより情報局、岡崎まち育てセンターりたの4団体が中心となり、コープあいち、愛知県社会福祉協議会、愛知県防災局、そして多くのボランティア・企業・市民活動団体の皆さんに支えられながら運営しました。現在も活動を継続。避難されている方を、県全体で応援しています。

[2011年度に実施した事]

- ①被災者が暮らせる公営住宅に関する情報を55件集める。
- ②定期便の発行:避難者に役立つニュース便を月2回、臨時号も含め計29回発行。
- ③交流会の開催:避難者を孤立させないための交流会を29回開催。述べ1,004人が参加。
- ④相談会・説明会の開催:土業組合等にお声掛けをし、パーソナルサポートチームを立ち上げ、税・法律・原子力災害・心理等様々なテーマの専門家が支援を行う相談会・説明会を計45回実施。
- ⑤物資・サービス支援:支援したい企業と被災者をつなぐマッチングを84件実施。
- ⑥東海・東南海地震に備えて一マニュアルの作成:東海・東南海地震を想定した広域避難者支援のセンター運営マニュアルを作成しました。



ふるさと大交流会の様子



原発事故損害賠償制度説明会



愛知県被災者支援センター内

業務支援から情報提供まで幅広くサポート



愛知ネット 副理事長
大野裕史

被災され、ふるさとを離れて愛知県を避難先とされた方が、現在550世帯1,200名暮らしてみえます。愛知県は、避難者の見守りのために「愛知県被災者支援センター」を設置。愛知ネットでは、他NPOや企業・行政と協働して、受け入れ市町村の支援業務をサポートしたり、広域的なニーズに対応するため「ふるさと交流会」や定期便「あおぞら」を発行したり、みなさんの支援の気持ちをお届けする業務を展開しています。

さまざまな組織が避難されている方をサポートします



飛島村から避難者へと託されたお米の贈呈式

愛知県での支援について

支援項目	支援期間	支援内容
生活支援	2011 6/13 ⇒ 2012 3月	支援物資の提供など
	2012 4月 ⇒ 継続中	避難者の皆さんの主体的活動の支援
交流会	2011 6/19 ⇒ 継続中	避難されている方同士、 愛知の皆さんと避難されている皆さんの交流の場
情報	2011 6/30 ⇒ 継続中	あおぞら 愛知県被災者支援センターニュースの発行
パーソナル	2011 8月 ⇒ 継続中	パーソナルサポート 専門家による個別相談会開催など

2 被災情報収集作業

復興のプロセスを 今後の防災・減災活動に活かすために

東日本大震災は、地震・津波・広域・原発などの複合型災害だったため、復興のプロセスも複雑です。そのデータを今後の防災・減災活動に活かすため、ボランティア20名でインターネット・新聞から、東日本大震災関連の情報収集を行いました。また、県内のイベントにボランティアを派遣し、市民に被災地の情報を提供しました。今後、避難所運営ワークショッププログラムのシナリオへの反映など、日ごろ愛知ネットが取り組んでいる防災・減災活動に活かしていく予定です。



後方部隊としてお手伝いを

愛知ネット 事務局スタッフ
都筑里美

私は、震災発生当時、別の仕事をしていました。愛知から離れられない私にも何かできることがあるのではと、愛知ネットを訪ねたことがきっかけで、情報収集を担当することとなりました。ボランティアの皆さんや仲間と共に、後方支援をすすめました。

3 あいち・なごや支援連絡会

「あいち・なごや東日本大震災ボランティア 支援連絡会」の立ち上げ

「支援の入らない地域を作らない」「最後の一人まで」支援を行うために、分野・組織を超えた連携が必要と考え、防災のための愛知県ボランティア連絡会有志、名古屋災害ボランティア連絡会有志、その他愛知県内のボランティア・NPO有志が2011年3月15日に集結。連絡会を立ち上げました。ホームページとメールリストを活用して支援物資の登録とマッチング、連絡会にボランティア登録をされた方々へのボランティア情報を配信、支援活動を行う団体同士の情報共有の場として、ミーティングなどを実施しました。今後も、さまざまな有志の皆さんとともに、情報交換と連携をしながら、息の長い活動を継続していきます。

4 募金・支援物資・ボランティア

多方面からの的確なサポート

募金は、安城市、刈谷市、大府市、豊橋市などで行い、災害救済金やNPO・ボランティアの活動支援資金を募りました。応援物資や輸送費のカンパも寄せられました。

また「刈谷市民ボランティア活動支援センター」が中心となり物資提供を呼びかけ、4回にわたって「愛知ボランティアセンター」へ届けたほか、「あいち・なごや東日本大震災ボランティア支援連絡会」を通じて寄せられた支援物資を、JCN（『東日本大震災支援全国ネットワーク』）の登録団体の募集情報とマッチングしてお届けしました。ボランティアは単に募集するだけでなく、岩手県の被災地へのボランティアバスの運行も3回にわたって行いました。

4 愛フェス



さんまの販売



会場内の様子



ワークショップ後に

テーマは「THINK東北」 ファンレイジングを通して東北と一体に

「楽しむことが誰かのためになる」をモットーに、愛知発・日本初のイベントとして2009年に誕生した「愛フェス」。震災後は、寄付やボランティアなど「自分にできること」を考え行動する姿が多くみられたことから、この変化を日本社会にしっかり根付くものにするべく、2011年の愛フェスのテーマをキーワード「THINK東北」としました。ファン

「愛フェス」で培った友情と絆を 一層強固なものに



愛フェス実行委員会委員長

面高俊文さん

NPOのファンレイジング支援を目的に2009年にスタートした「愛フェス」ですが、第3回の企画会議を目前に、3・11を迎えました。2011年は東北被災地支援に的を絞る、スローガンも「楽しむことが、東北のためになる」に変更、テーマは「THINK東北」としました。愛知でできる東北支援を具体化し、気仙地区の皆さんの参加も得てさまざまなプログラムを展開しました。2日間で3万5千人を超える来場者が東北に寄り添い、我が身に置き換えて災害を学びました。ご多忙中駆けつけてくださった大船渡・住田の両首長をお迎えし気仙との絆を確認するとともに、愛知の想いを被災地にお届けしました。第4回の「愛フェス2012」では東北支援のコンテンツを維持し、「忘れない東北」のテーマで想いの風化防止に注力し、気仙地区からは支援に対するお礼と復興に対する強い意志・熱い意欲が表明されました。

今後も「愛フェス」を通じて培った両地域の友情と絆を一層強固なものに育てるとともに、気仙地区の1日も早い復興を祈念し、被災された皆さんへの支援継続をお約束します。

レイジングなどのレギュラー企画に加え、被災地域と一体となった企画を数多く展開し、愛知にいながら東北を支援できる仕組みを盛り込みました。

東北エリア・伝統文化披露として東北の皆さん約150人をお招きし、市民活動団体等のブース出展コーナーを設置したり、盛岡市のさんさ踊りや陸前高田市の太鼓などをステージ披露いただいたり、ワークショップエリアで大船渡市長と住田町長の特別講演会を開催しました。そして2011年の愛フェスでは、フードエリアの食事とファンレイジングが連動していたことも特徴のひとつ。そのフードエリアでも東北色があふれ、「大船渡さんまつり」のコーナーは長い行列ができるほどの人気でした。運営は愛知県の団体が先行し、値段を各自が決める募金方式で販売しました。

2011年にできた、愛知と東北との絆を一過性のものにしないために、2012年も東北の皆さんをお招きしました。「大船渡さんまつり」は2012年も大好評。東北物産展コーナーは、気仙地区の皆さんはもちろんのこと、愛知のボランティアの皆さんのご協力もあり賑わいました。また、震災を機に結成された東北を支援する団体によるブース出展や、気仙地区の皆さんをパネリストとしてお招きしてシンポジウムを開催しました。「愛フェス」の開催は被災地支援につながるだけでなく、来場者が東北の皆さんとのつながりを感じられる貴重な機会になったと確信しています。またフードエリア、NPOエリアの出展料の一部は東北支援に役立てられ、売上の一部も東北や地域社会を支援するNPOのために活用しました。

「愛フェス」を通して 地域の復興への思いを新たに



ケセンきらめき大学事務局長

上野和彦さん

まずこの場を借り、「愛フェス」への参加をお世話いただきました愛知ネット様に対しまして、厚く御礼を申し上げます。あの3月11日の東日本大震災直後から愛知県の皆様には大きな支援を頂戴したうえに、この「愛フェス」での経費をご負担していただきましたことに対し、重ねて感謝申し上げます。

われわれケセンきらめき大学は、岩手県の気仙地区（大船渡市・陸前高田市・住田町）の町おこし活動をしている任意団体ですが、東日本大震災以降は、地域の復興へ向けての提言や「震災語り部」の育成などに努めています。「愛フェス」には、平成23年と24年の2年にわたり4名ずつ計8名が参加させていただきました。はじめの年は、震災の写真展と物販を実施。2年目の昨年は、物産と震災写真集の販売を行いました。会場では、おいでになった皆様より温かい、励ましの言葉などを頂戴し、地域の復興への思いを新たに参りました。

私たちが微力ながら復興に努めて参りますので、今後も大船渡のみならず被災地へのご支援をよろしく願います。



交流しながら繋がる、 そんな「愛フェス」を これからも

愛知ネット 事務局次長
伊藤健太

2日間を無事に終えることができても嬉しく感じています。東北物産やグルメを買っていただけただけの方も、愛ファザWalkに参加していただけた方々も、「少しでも東北支援ができるなら」と口々に言っていただけました。東北からお呼び出した方々も「愛知に来られて嬉しい」と笑顔を見せていただけました。自分以外の「誰かのために何かをしたい」という想いで溢れていた2日間だったと思います。これからも、交流しながら絆が繋がる、そんな仕掛けを「愛フェス」を通して行っていききたいと思います。

5 愛ファザ WALK

さらに進化して東北を応援

2011年は「名古屋・長久手ルート」と「岡崎・豊田ルート」の2ルートが用意され、それぞれゴールの会場（愛・地球博記念公園）を目指しました。参加者は2ルート・2日間合わせて721人。2011年は2名以上であれば参加可能としたこともあり、2010年の参加者数ををはるかに上回りました。ボランティアも延べ218人を数え、各地のステーションの協力者や救急スタッフらのサポートもあり、万全の体制で実施しました。

また、首都圏では帰宅困難者が発生し、今後東海地方で起こりうる東海・東南海地震でも最大約98万人が帰宅困難になると予想されています。こうした事態を想定して愛知県では各地に「基幹的徒歩帰宅支援ルート」を設定しており、その指定ルートを歩いた愛ファザWalkは貴重なシミュレーションとなったはず değildir。2011年愛ファザWalk、「小牧・高蔵寺ルート」が加わった2012年愛ファザwalkともに、東北からいらした皆さんもご参加。皆さん完歩されました。中には「来年も参加したい」とおっしゃる方もいて、東北と愛知の絆が一層深まる機会となりました。

また、愛フェス本会場と同様に愛ファザWalkでも参加費の一部が、東北の被災地で活動しているNPOなどの活動支援金として寄付されました。

歩くことが、東北のためになる。そんな震災復興支援ウォーク・愛ファザWalkは、今後もファンディングの新しいカルチャーとして広く受け入れられるものでありたいと願っています。



6 現地報告会開催

気仙地区にて行ってきた活動の報告会を開催

2011年5月に大府市民活動センターでの現地報告兼説明会をはじめとして、国内各地で報告会を実施してきました。愛知ネット理事やスタッフだけでなく、支援活動を行う団体とのパネルディスカッションや、大船渡市盛町七夕まつり実行委員の皆さんをお招きした報告会、3月11日その時ごとをお伝えいただく防災フォーラム等を通してさまざまな形態で開催しました。2011年春は、東北の状況や支援のための活動内容を考えていただく内容。夏になると、お祭りなどを通じた東北と愛知との地域連携の内容。秋から冬にかけて、支援活動を行うさまざまな団体とともに活動内容の報告やこれからの活動のあり方の模索をしました。2012年は、大船渡市消防団団長の今野さんと元綾里(りょうり)小学校校長の鈴木さん、赤崎小学校で避難所運営された吉田さん等、震災時に懸命にご活動された方々からお話いただきました。

被災地の学びを愛知に生かすべく、これからもあらゆる機会を創り、お伝えしていきます。



中間報告会 第1部
「各団体からの活動報告」における災害ボランティア活動報告



中間報告会 第2部
報告者全員と来場参加者による「総括ディスカッション」